

令和6年度 事務事業評価シート（1）

[令和5年度事務事業]

特別会計		事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	認知症サポーター等養成事業	事業番号	011-069
担当部署名	健康福祉 局 長寿社会 部		長寿支援 課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(4) 高齢者が住み慣れた地域で心豊かに暮らし続けられる社会の実現
		寄与するKPI	有	取組の方向性	④認知症支援策の推進		
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	指標名	—	目標値	—
		寄与するKPI	無	取組	—	ターゲット	—

2	関連計画	堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和6年度(2024)～8(2026)年度）					
3	事業開始年度	平成 23 年度	点検対象年度	令和 7 年度			
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	認知症施策推進大綱・認知症サポーター等養成事業実施要綱・介護保険法・共生社会の実現を推進するための認知症基本法					
事業の概要							
5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	堺市					
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	認知症高齢者とその家族等関係者 高齢者と関わりのある全ての市民・市内事業所等	対象数	—			
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	認知症になっても安心して暮らせるまちをめざし、認知症に関する正しい知識を伝えることで理解を深め、日常生活の中で認知症の人に会ったときに、その尊厳を損なうことなく適切に対応することができる人を増やすこと。					
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など	認知症に関する普及啓発の推進として以下の項目を実施 ・高齢者が認知症になっても、住み慣れた地域で尊厳を持って生活できるよう、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守り支援する認知症サポーターの養成講座を開催 ・子どもたちにも年齢に応じて、認知症や福祉について学べるよう、学校の協力のもと小中学生を対象として、認知症キッズ・サポーター養成講座を開催 ・認知症養成講座の講師役となる認知症キャラバン・メイトの養成					
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載						
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)	(社福) 堺市社会福祉協議会					
10	公民連携・協働事業						

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位	実績		目標	目標 点検対象年度	
	認知症サポーター養成数(累積数)	人	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
			目標値	85,000	90,000	94,300	98,600
			実績値	86,617	92,341		
達成率	102%	103%					
	当該指標を選定した理由	認知症サポーターは認知症に関する知識を有し、認知症の方のサポートを行うことができるため、その養成人数は認知症施策の推進の評価指標とすることに適していると考えられるから。					
	目標値の設定根拠・算出方法	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に定められた目標達成のために必要な到達水準を年次で落とし込みしたもの。					
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位	実績		目標		
	サポーター養成講座開催回数	回	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
			目標値	234	252	114	
			実績値	134	140		
達成率	57%	56%					
	当該指標を選定した理由	講座開催数の増加がサポーター養成数の増加につながるため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	10,357 (令和4・5年度の年間養成者数) ÷ 274 (令和4・5年度の講座開催数) = 37.8人/1回。4,300人 (目標) ÷ 37.8 = 114					

令和6年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	認知症サポーター等養成事業	事業番号	011-069
-------	---------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度		令和6年度
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算
事業費 (a)	836	712	1,126	1,113	1,073
13 財源内訳	国支出金	321	274	433	428
	府支出金	161	137	216	214
	市債		0	0	0
	その他 (被保険者保険料)	193	163	261	256
	受益者負担金(使用料、手数料等)		0	0	0
	一般財源	161	138	216	214
14 人件費 (b)	820	820	810	810	810
15 年間経費(c)=(a)+(b)	1,656	1,532	1,936	1,923	1,883

事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度	事業費	うち一般財源	項目	年度	事業費	うち一般財源		
								R5	決算
16 事業費内訳	委託料	R5	決算	1,113	214	R5	決算		
		R6	予算	1,073	207	R6	予算		
		R5	決算			R5	決算		
		R6	予算			R6	予算		
		R5	決算			R5	決算		
		R6	予算			R6	予算		
		R5	決算			R5	決算		
		R6	予算			R6	予算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和4年度	令和5年度
① 認知症サポーター年間養成数	人	4,633	5,724
② 上記①にかかる年間経費	千円	712	1,113
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	154	194

備考 (算出についての説明等) 1人のサポーターを養成するのにかかる年間経費

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	認知症サポーターやキャラバン・メイトの養成講座ともに数年間にわたって取り組んできたこともあり、認知症サポーターやキャラバン・メイトの数は増加し、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に定められた令和5年度の目標90,000人を達成した。
----	---

KPI等への寄与 (基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

19	認知症を正しく理解した認知症サポーターの数が増えることで、高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続ける社会の実現につながる。
----	--